

災害への備えは より実効性のある防災訓練



新美 秀夫 議員



防災ラジオ

同報無線

携帯メール

問 大災害に備え自助・公助・共助の精神を養い町民と行政が一体となって、災害に備えることが必要である。

① 防災ラジオを町が割安で販売する考えがあるか。

② 標高入防災マップを配布する時期は。

③ 本年も町民参加の防災訓練を行うか。

④ 防災無線をデジタル化する計画があるか。

答 ① 平成24年度に、防災ラジオを導入し、安価で販売したい。

② 3月1日から全戸配布している。

③ 昨年の防災訓練の反省点を踏まえ、より実効性のある防災訓練を行いたい。

④ 現在アナログで対応しているが、使用に問題はないので当面デジタル化は考えていない。

問 新庁舎は町民が安心して利用しやすい庁舎であるべき。それは、町民・行政・設計者・建設企業が一体となる取組みが必要。

① 事業の基となる概算建設資金の内訳は。

② 設計者選定審査員の選定の基準は。審査費用は。

③ 設計者選定の一次・二次審査の基準は。

④ 建設中に従前行った行事はどうか。

⑤ 町営プールを取壊した後、新しく建設するか。

答 ① 設計業務約1億3000万円、建築工約24億5000万円、備品の移設・購入等約4億2000万円。

② 学識経験者4名、住民代表1名、副町長の6名で構成。一回あたり延べ4万6600円。

③ 第一次審査は書類で審査し、第二次審査は基本コンセプトや配置計画案の考え方、技術テーマに対する提案について、プレゼンテーションとヒアリングを実施する。

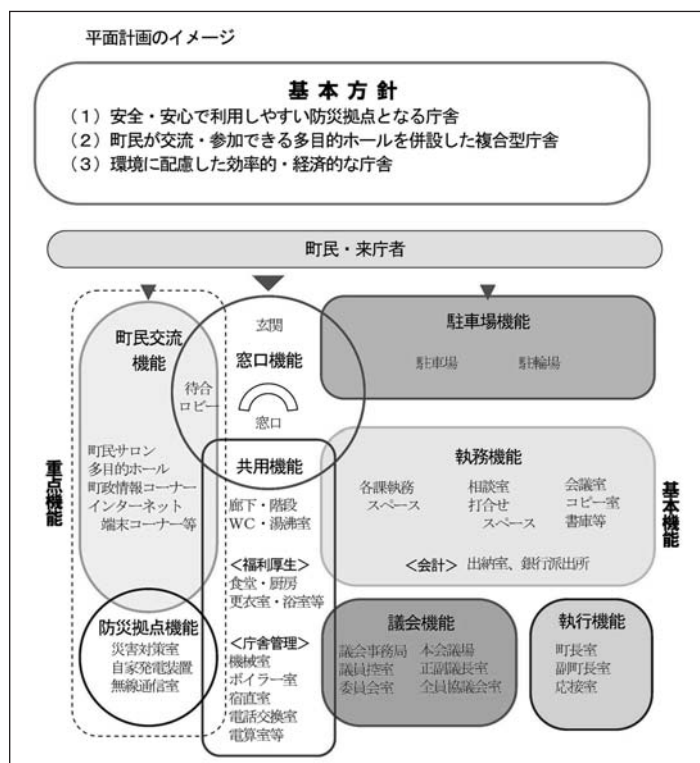
④ 開催場所の変更など、主催者と担当課で調整する。

⑤ 今後検討する。

新庁舎建設の設計は

設計者の二次審査は

プレゼンテーションとヒアリングを実施



建設平面イメージ